

水草を取り扱う際の 注意点

不要になった水草は、野外に捨てずに、
ごみ袋等に入れて処分してください。

- ▶水槽内では小さかった水草も、自然水域に入ると爆発的に増えることがあります。
- ▶水草の中には、水から出して数日置いておいても枯れないものがあります。
川や池はもちろんのこと、たとえ陸上であっても野外には捨てないようにしてください。



屋外で水草を利用したり、水槽の水換えをする際には、
水路や排水溝に水草が流れ出さないようにしてください。

- ▶水草の中には、茎や葉の小さな破片から再生して増えるものがあります。
水草の破片が池や川、水路などに流れ出さないようネットなどを使用してください。
- ▶庭の池やビオトープなどで水草を利用する場合は、
台風でも破損したり水草が流出しない設備、定期的な設備の点検、
水草の生育に応じた間引き作業など、技術や費用が必要です。
- ▶ビオトープなどでは外来種の利用は避け、地域の在来種を活用しましょう。



観賞や栽培目的のために、
自然水域に水草を
持ち込まないでください。

- ▶水草の観賞は、水槽や睡蓮鉢など、
ご自身で管理できる範囲内で
お願いします。



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

令和3年3月1日 初版発行
編集／千葉県生物多様性センター（電話／043-265-3601）
発行／千葉県環境生活部自然保護課
mail／webmaster@bdcchiba.jp（右側の二次元バーコードをご利用ください）
URL／http://www.bdcchiba.jp/alien/ali_index.html（千葉県における外来種対策について）



生態系被害防止外来種リストに掲載されている水草・水生植物

▶緊急対策外来種

- 外来アゾラ類 **特**
- ナガエツルノゲイトウ **特**
- オオバナミズキンバイなどを含む
ルドウィギア・グランディフロラ **特**
- オオフサモ **特**
(バロットフェザー)
- ブラジルチドメグサ **特**
- オオカワヂシャ **特**
- ミズヒマワリ **特**
- スバルティナ属 **特**
- ボタンウキクサ **特**
(ウォーターレタス)

▶重点対策外来種

- オオサンショウモ
- ハゴロモモ
(カモンバ、カボンバ)
- 園芸スイレ
- オランダガラシ
(クレソン)

- アメリカミズユキノシタ
- ウチワゼニクサ
(ウォーターマッシュルーム)
- イケノミズハコベ
- ハビコリハコベ
(グロツソスティグマ)
- オオバナナイトタヌキモ
- エフクレタヌキモ **特**
- ヒロハオモダカ
(ジャイアントサジタリア)
- ナガバオモダカ
(ジャイアントサジタリア)
- オオカナダモ
(アナカリス)
- コカナダモ
- クロモドモ
- アマゾンチカガミ
(アマゾンフロッグピット)
- 外来セキショウモ
(ジャイアントバリスネリアなど)
- ホテイアオイ
(ウォーターヒヤシンス、ホテイソウ)

- キショウブ
- コゴメイ
- チクゴスズメノヒエ
- アサハタヤガミスゲ
- シュロガヤツリ
- メリケンガヤツリ

▶その他の総合対策外来種

- ウキアゼナ
- キシウスズメノヒエ
- アメリカヤガミスゲ

▶定着予防外来種

- クラッスラ
- ヘルムシー

特は特定外来生物

外来生物法に基づいて、輸入や販売、譲渡、栽培・
保管、野外への植栽・放出等が規制されています。
違反行為には、個人の場合、最大で300万円の罰
金もしくは3年間の懲役、法人の場合は最大で1億
円の罰金が科されますので、ご注意ください。

手賀沼・
印旛沼が危ない！

湖沼・川・水路に 水草を 捨てないで！

— 千葉の水辺に迫る外来種の脅威 —



オオカワヂシャ



ミズヒマワリ

今、日本各地の水辺で
外来の植物による生態系の破壊が問題になっています。
千葉県でも水草により被害が出ていることを
みなさんは知っていますか。



オオフサモ



ナガエツルノゲイトウ



オオバナミズキンバイ

千葉県

県内に広がる

ナガエツルノゲイトウ

千葉県各地の水域で、特定外来生物のナガエツルノゲイトウが繁茂し、
県内の治水にとって大きな脅威となっています。

大和田排水機場に
押し寄せる
ナガエツルノゲイトウ

大和田排水機場は
大雨の際に印旛沼の水を
東京湾に排水する施設

花は白色～灰白色、
球状で直径約1 cm

4～11月に開花



ナガエツルノゲイトウとは

南アメリカ原産のナデシコ目ヒユ科の多年草。

水辺に生え、茎が中空のため群落を水面上に広げ、大きな浮島を作る。水辺のほか、
農道、畑、公園などにも分布を広げている。茎の切片からも次々と繁殖する。

手賀沼周辺の新たな脅威

オオバナミズキンバイ

手賀沼周辺水域では2017年に初めて発見されました。
ナガエツルノゲイトウよりも生長が早く、被害の拡大が懸念されています。

花は黄色、花弁は5枚
直径約4 cm

5～11月に開花



環境省提供

オオバナミズキンバイの大群落

撮影場所 柏市柏中村下
林 紀男 提供

オオバナミズキンバイとは

南アメリカ、北アメリカ南部原産のフトモモ目アカバナ科の多年草。
水中から陸上まで幅広い環境に生育する。冬季には枯れるが、生き残った茎の
切片から根を出し再生する。種子および茎の切片からも増殖する。

厳重な警戒が必要な緊急対策外来種

生態系被害防止外来種リストのうち、緊急に対策しなければならないものが、緊急対策外来種です。

ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイもこれに含まれ、水生植物ではこの2種以外に7種が指定されています。

これら外来の水生植物は、日本の在来種の生育場所を奪って生態系に悪影響を及ぼしたり、大雨で群落が流れ出し、
水路を詰まらせるほど繁茂して水害を引き起こす場合があります、その取り扱いには注意が必要です。



外来アゾラ類

世界各地に分布。アカウキクサ科の浮遊性の水生シダ植物。窒素分を豊富に含み、枯れて湖底に堆積すると富栄養化^{※1}を引き起こす。

参考サイト：長野県版外来種対策ハンドブック
写真：環境省提供



オオフサモ

南アメリカ原産。アリノトウグサ科の抽水性^{※2}の多年草。地下茎で栄養繁殖^{※3}する。河川で密生して繁茂し、水流を妨げる。

参考サイト：環境省「日本の外来種対策」
写真：環境省提供



ブラジルチドメグサ

南アメリカ原産。セリ科の抽水性の多年草。密生して繁茂し在来種の生育を妨げる。切断した茎から栄養繁殖するため、防除の際には注意が必要。

参考サイト：国立環境研究所「侵入生物データベース」
写真：環境省提供



オオカワヂシャ

ヨーロッパ～アジア北部原産。ゴマノハグサ科の多年草。日当たりの良い水辺に生育。根茎で栄養繁殖する。在来種のカワヂシャと交雑してしまう。

参考サイト：環境省「日本の外来種対策」
写真：環境省提供



スパルティナ属

北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ北部原産。イネ科の多年草。高さは2.5mに達し、他の在来種が入り込めないほど密生して株状に繁茂する。2020年現在、千葉県内では確認されていない。

参考サイト：環境省「日本の外来種対策」
写真：環境省提供



ミズヒマワリ

中央・南アメリカ原産。キク科の抽水性の多年草。栄養繁殖で増えることが多く、ちぎれた茎の節から根をだす。生長が早く、短期間に大きなコロニーを形成する。

参考サイト：環境省「日本の外来種対策」
写真：環境省提供



ボタンウキクサ

アフリカ原産。サトイモ科の浮遊性の多年草。根茎や越冬芽による栄養繁殖で増える。水面を覆い尽くして光をさえぎるため、他の植物の光合成を邪魔してしまう。

参考サイト：環境省「日本の外来種対策」
写真：環境省提供

※1 富栄養化(ふえいようか)：水中に含まれる栄養分が、自然状態より増えすぎること

※2 抽水性(ちゅうすいせい)：水底に根を張り、茎か葉の一部が水上に出ている状態

※3 栄養繁殖(えいようはんしよく)：種子ではなく、葉や茎、根などから繁殖する方法